

(5月30日 定時社員総会)

挨拶

## 挨拶

会長  
間塚道義



皆さん、こんにちは。会長を務めさせていただいております間塚でございます。

さて、本日は、丸山参議院議員、羽藤特許庁長官をはじめ、ご来賓の皆様には、公務大変お忙しい中、JIPA総会にご出席をいただきまして、まことにありがとうございました。また、会員企業の皆様には、当協会の活動に日頃より大変温かいご支援とご協力を頂戴いたしております。この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

昨年の総会で、日本の経済も明るい兆しが見えてきたというお話を申し上げました。2013年度の決算報告を拝見しますと、増収増益の企業が大幅に増えました。日本企業の着実な回復は、官民一体となった努力が功を奏しているものと思っております。本年度もさらなる飛躍に向けまして、知財でもさまざまな取り組みを加速していきたいと考えております。

ところで、景気はよくなりましたが、2013年度の経常収支の黒字幅がここ30年間で最小になったという発表がありました。これはエネルギーの問題など様々な要因はあろうかと思いますが、円安でも簡単には輸出が伸びなくなってきたという、日本の産業構造も一因として挙げられるのではないかと思います。そのような中で、我々知財関係者に求められる取り組みとして、3点ほど私なりに考えております。

1点目は、知財によって少しでも黒字幅の拡大に貢献するという事です。特許はもちろんですが、商標や著作権など、オール知財で収益力をいかに高めるかという観点で、具体的に知恵を絞る必要があるのではないかと思います。

2点目は、TPPをはじめとする経済連携協定交渉がいろいろ進んでいるわけですが、それら協定によって、特にアジア諸国における知財制度を整えて、投資環境の整備に貢献するということが必要だと思います。ただ、これは先進国と新興国の意見の対立や、あるいは私的な利益と公共の利益の衝突といった難しい問題に直面することも事実でございます。これらをどのように調整するかということについては目先の経済性だけにとらわれない、広い視野に立った取り組みが求められるものと思っております。

それから3点目は、国内における制度整備です。経済がグローバル化しても、日本が研究拠点、イノベーションの拠点として大変重要であるということは、疑う余地もないわけであります。職務発明制度の見直しや、あるいは営業秘密の保護強化などを通じてイノベーションの活性化につながるような制度整備をすることが重要です。そして、ひいては諸外国の制度整備にもつなげるということが必要なのではないかと思っております。これらの課題につきましては、政府におかれましても精力的に

本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

取り組んでいただいております，大変心強く思っております。JIPAとしましても積極的に参画していく所存ですので，引き続きの取り組みをぜひ，よろしくお願い申し上げます。

最後になりますが，JIPAは本年4月1日より一般社団法人へ移行いたしました。移行に当たりまして，関係の皆様には大変お世話になりました。改めてお礼を申し上げます。新生JIPAとして，今年度も皆様と一緒に邁進していきたいと考えております。引き続き皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます，甚だ簡単でございますが，ご挨拶にかえさせていただきます。ありがとうございました。

